

鹿児島県立与論高等学校創立五十周年記念事業趣意書

与論の海は、今この瞬間も青く美しく澄みわたり、私達の心を洗ってくれるかのようです。島の中央の窪舎の丘には、明日を夢見て勉学に、スポーツに励む若人らの明るい声が響きわたっています。

皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。平素より本校の教育につきまして、温かいご理解とご支援を賜り、厚く感謝申し上げます。

さて、本校は平成二十八年で創立五十周年を迎えることとなり、同窓会・PTA・学校が一体となって、創立五十周年記念事業を実施することいたしました。

顧みますと、与論島は、戦後アメリカによる八年間に及ぶ統治時代を経て、昭和二十九年から始まった「奄美群島振興計画」等により、島内のインフラが次々と整備され、産業・経済文化を著しく発展させてきました。それに伴い、中学校から上級学校への進学希望者は増加したものの、鹿児島市など島外への進学は、大きな経済的負担となり、また、家族の別居生活や若者の流出といった問題を生じさせてきました。そうした中、島民生活の救済、島の経済・文化の発展のため、高校設置の必要が叫ばれ、その声はやがて与論全体に広がり、島民の悲願となってきたわけです。そして、町当局や教育委員会が中心となって、あらゆる機会に高校設置の問題を取り上げ、実現に向け十数年にわたり、県議会や県教育委員会への陳情・要望を重ね、折衝を続けた結果、ついに、昭和四十二年、与論中学校の校舎を一部借用して県立大島高等学校与論分校が発足、普通科百十名が入学いたしました。翌年、現在の窪舎の地に移転しましたが、生徒達は体育館もなく、未整備のグラウンドなどの劣悪な環境の下で学び、見知らぬ地を校歌で歌うという分校の悲哀も経験しました。そこで、町長をはじめ町当局・PTA会長から成る「独立昇格推進委員会」を結成し、独立運動を展開した結果、分校設立の四年後にあたる昭和四十六年四月、晴れて鹿児島県立与論高等学校として独立を果たすことができました。

校歌・校章を制定、体育館・武道館・特別棟・プール・小体育館・弓道場といった施設も整備され、生徒の数も三百名を超え、ようやく県立高校の陣容が整いました。平成十二年には「連携型中高一貫教育校」に指定され、中高の六年間を見通した系統的・継続的な教育活動も開始されました。これらの学習環境の整備充実に伴い、「向学」・「創造」・「親和」・「不屈」の校訓の下、師弟共に励み、勉学はもとより、部活動も活発化、九州大会や全国大会への出場を果たすなど、好成績を収めて与論高校の名を高めてくれました。多数の大学入学者や優良企業への就職者も輩出し、島内はもとより全国各地、そして国外へと有為の人材を世に送り出して現在に至っております。

一方、近年の少子化の波は与論にも押し寄せ、生徒も往時の半数以下に減少しております。平成二十八年度入学生は四十名を下回り、一学年一クラスが現実のものとなってしまいました。今後教員数の減少によって、生徒各自の進路に応じたきめ細かな指導が脆弱化する危険性も現実のものとなっております。

私達は、与論高校創立五十周年を迎えるにあたり、歴代の諸先輩方、町当局の皆様のご労苦と築かれた伝統をしのび、その偉業に敬意と感謝の意を表すると共に、決意を新たに、さらに**魅力ある与論高校の創造**によって、

先人の与論高校に託した島の活性化・発展の願いを永々と伝える必要があると考えます。かつて高校設立に燃えた情熱の怪気焰を、今再び、高らかに再燃させ、創立六十年、七十年へと一層の発展を紡いで行こうではありませんか。そして、生徒に夢や希望を持って学んで欲しいと願うものです。

つきましては、PTA・町民の皆様方をはじめ、全国各地でご活躍中の卒業生そして与論高校の発展に心をお寄せくださる皆様にご理解・ご賛同いただき、出費多端の折誠に恐縮に存じますがこの事業推進に格別のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

平成二十八年 八月 吉日

鹿児島県立与論高等学校 (TEL 0997-971-2064)

創立五十周年記念事業実行委員会

委員長	(前与論町教育長)	田 中 國 重
副委員長	(同窓会長)	富士川 浩 通
同	(PTA会長)	沖 道 春
同	(校長)	有馬 敏 彦

一 記念行事

- (一) 創立五十周年記念式典・祝賀会 (平成二十八年十一月十九日)
- (二) 創立五十周年記念体育祭 (平成二十八年六月十二日)
- (三) 創立五十周年記念文化祭 (平成二十八年九月四日)

二 記念事業内容

- (一) 創立五十周年記念講演会
- (二) 体育館緞帳取付
- (三) 中高一貫推進基金設立
- (四) その他備品購入

三 募金方法

○ 金融機関は 振り込み人の氏名・住所まで記載されるのが郵便局だけです。同封の振込用紙にてお払い込みください。

なお、一万円以上の寄付者には記念誌を進呈いたします (発行 平成二十九年二月頃)。

○募金振込先 郵便局

(加入者名) 鹿児島県立与論高等学校創立五十周年記念事業実行委員会

(口座番号) 01700-11-144942

四 募金締切 平成二十八年 九月 三十日

窪舎会幹事名簿

期別	幹事名					
1	青山錦好	猿渡ケイ子				
2	福地元一郎	町政枝				
3	久永信治	富喜代				
4	富士川浩通	佐多秀子				
5	裾分雅治	高田リエ子				
6	川村達義	池田恵子				
7	富士川浩康					
8	柳田景治					
9	児玉伊佐雄	黒田しげよ				
10	堀勝弘	川上まり子				
11	酒匂浩隆	田畑真寿美				
12	山田英子					
13	朝岡芳正	林末美				
14	供利恵治	寺園美千代				
15	山下健勇	裾分嗣女				
16	大馬秀克					
17	野口池富					
18	菊池俊行					
19	竹内蒼					
20	濱田修作	濱田秀子				
21	有馬知美	原田誠一				
22	坂元守	中山久代				
23	原田健男	富ますみ				
24	原田武司	野田さえ子				
25	堀田哲也	東千恵美				
26	森崇					
27	中村昌彦					
28	青山秀則	原田さおり				
29	田畑武利	竹村拓哉	町永真由美			
30	基高志	平田理恵				
31	白石将	町仁美	吉田真力	田畑沙織	本晴美	沖園匠
32	谷山幸代	山下早千江	西博之	西大祐	沖野誠心	手島里美
33	裾分大喜	光俊樹	川上淳	竹本友樹	喜村一隆	中村千夏
34	沖道成	裾分徹	山真之助	里山美香	宗美澄	
35	山田隆治	高井秀一郎	裾分功	喜村輝代		
36	益山旦	佐藤愛子	金子将大	川畑奈津子		
37	裾分龍男	吉田正剛	山下徹也	竹岡昌彦	大田直美	町剛
38	山野隆治	伊東美咲	林慶子	川畑真寿美	大田那男人	山下輝
39	林幹大	山本登紀子	元井大治郎	熊谷成美	山下正登	町村渚
40	境華子	町田風花	山野寛治	川上隆行	阿波連佳美	川畑将一郎
41	山野貴之	竹内ひかる	高宏樹	鬼塚由麻	沖島重範	町永沙也歌
42	青山翔	田畑知将	林恵理香	熊谷恭志郎	須藤美咲	
43	増尾美緒乃	河野貴之	大馬優記	池畑智春	柳沢秀俊	町村夏海
44	栗本大生	栄美菜子	竹下航輝	大角ちなつ	林竜希	石峯穂波
45	山田豊富	町本津由美	大馬健至	瀧瑞花	谷山元基	田中友梨
46	松村優	吉田笑里	永井孝明	磯村夏海	涉裕貴	川田万里乃
47	有村一輝	町綾花	磯村拓海	久野成美	朝岡陽平	井上恵美